様式１　事業計画申請書

|  |  |
| --- | --- |
| １．申請するテーマ（一つに☑） | □テーマ１　□テーマ２　□テーマ３　□その他 |
| ２．申請代表者氏名 |  |
| ３．所属先・役職 |  |
| ４．連絡先 | 電話番号　　　：　　　　－　　　　　　－　　　　　　　　　 |
| メールアドレス：　　　　　　　　＠ |
| ５．事業名 |  |
| ６．取組の概要 |  |
| ７．チーム構成・役割 |  |
| ８．予算（項目・金額, 合計） | 1. 2. 合計金額　：　　　　　円 |
| ９．実施概要 |  |
| １０．取組の成果（想定） |  |
| １１．取組成果の活用例 |  |
| １２．学会活動への貢献（例）①様々な分野・領域としての交流②学術的貢献③その他 |  |

※必要に応じて、枠を広げて記載ください。

様式１　事業計画申請書（例）

|  |  |
| --- | --- |
| １．申請するテーマ（一つに☑） | ☑テーマ１　□テーマ２　□テーマ３　□その他 |
| ２．申請代表者氏名 | AAAA |
| ３．所属先　・　役職 | Xxxxxx大学xxxxx学部　・　准教授 |
| ４．連絡先 | 電話番号　　　：　xx　　－　　xxxx　　　－　　xxxx　　　　 |
| メールアドレス：　　　　xxxxxxx　＠ xxxxxxxxxxx |
| ５．事業名 | 生活支援用具マーク認定事業に向けた企業認識調査 |
| ６．取組の概要 | 生活支援工学会として生活支援用具マーク認定事業を実施することを想定し、実際に関連企業が関心を示すかどうかの調査を行う。生活支援用具マーク認定事業は、玉石混合の福祉用具業界において、信頼性の高いものを認定することで福祉用具の品質向上とエビデンスのある製品作りに寄与するものである。将来的には業界団体等との連携で業界認定マークとすることも視野に入れ、給付制度で対象とする福祉用具の質の向上などの社会システムに実装することを目指す。本申請では、そのための現状調査の一環として、企業側の状況把握やこのような仕組みに対するニーズの抽出を目的として、関連企業へのアンケート調査、および認定事業に必要となる要件を構築する。 |
| ７．チーム構成・役割 | AAA（○○大学○○学部　准教授）・全体の統括BBB（○○研究所　研究員）・アンケート調査CCC（株式会社○○　○○課長）ワーキングチームによる要件構築DDD（○○協会　○○担当）・予算の管理 |
| ８．予算（項目・金額, 合計） | 1. 謝金（アンケート実施、結果分析）・５万円（@１万円×５名）2. 謝金（ヒアリング協力）・10万円（＠5千円×20名）3. 諸経費・2万円合計金額　：　25万円 |
| ９．実施概要 | 生活支援工学会関連の工業会、供給事業団体の会員企業300社を対象として、福祉用具を製造・販売している企業100社を対象として、福祉用具の安全性の確保に関する企業の現状に関するアンケート調査を実施する。また、関連企業、業界団体、行政関連機関２０名を対象にヒアリング調査を行う。これらの結果を総合し、認定事業で必要となる要件をまとめる。 |
| １０．取組の成果（想定） | 生活支援用具マーク認定事業を活用する企業の関心度合いを確認し、事業としての実現性・有用性を検証する。本学会がその認証機関となることで業界におけるプレゼンスも向上する。さらにその先の将来としては、福祉用具の有効活用が進まない中で、認証制度を基盤にして福祉用具の使い方まで企業がフォローすることを必須条件とすることで、業界全体を　巻き込んだ活動を展開し、介護保険制度等にもエビデンスをもって提案が可能となる。学会としては、年10アイテムの登録で100万円の増収見込み。 |
| １１．取組成果の活用例 | 中小企業が福祉用具を新規開発した際に、広告を目的に認定マークを取得する。 |
| １２．学会活動への貢献（例）①様々な分野・領域としての交流②学術的貢献③その他 | ①様々な分野・領域としての交流の場JASPAとの連携ができれば、JASPAに参加する企業と学会に参加する学術・行政をつなげることが期待できる。また、本分野におけるエビデンス取得の拡大によって、医療・介護現場との連携も期待される。②論文投稿新規アイテムに関する情報収集や論文投稿の増加が期待される。③その他学会としては、年10アイテムの登録で100万円の増収見込み。また、関心のある企業からの会員増強にもつながる。 |

※必要に応じて、枠を広げて記載ください。